



# 浜家連 ニュース 5月号

第201号

平成29(2017)年5月1日発行

○発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816 FAX 045(548)4836  
URL <http://hamakaren.jp/>

## 退院後の支援と救急時の対応について 理事長 宮川玲子

4月4日から3日間、Eテレで精神疾患に関する番組を放送していました。

4日は措置入院者の退院後の支援について。相模原事件で犯人が措置入院していたこともあり、厚労省は措置入院者の退院後は支援計画をたて見守り支援を行うという政策を打ち出しました。家族としては退院後の支援は有った方が良いと思いますが、本人にとっては監視されていると思うようです。通院や薬を止めてしまうと再発につながりますからその管理は必要です。が、それだけでなく本人の悩みや希望を受け止めて相談にのって欲しいと思います。監視にならない様に見守り、他の必要な支援にもつなげて欲しいと思います。

当日、出演していた当事者でコンボ編集者の宇田川さんが、医療保護入院した際、眠らされ両手両足、お腹の所まで拘束され放っておかれたと聞きました。暴れていたならともかく、なんでもないのでそのようなことをするのは人権問題だと思いました。今でもその様な病院があるのでしょうか。夜間救急で入った時は人手が足りないのです、何かあったら困ると思うそのような措置をするのでしょうか？

5日はフィンランドの西ラップランド地方で行われている「オープンダイアログ」について取り上げていました。浜家連のフォーラムや単会の例会等で勉強してご存知の方も多いと思いますが、「対話による治療」ということで、救急の電話があった

ら24時間以内につけて、本人を交えたミーティングをするというものです。その際医師や看護師の他、臨床心理士やピアの人(当事者)など多職種の人で対応するというものです。それを継続することで入院せずに7割の人が復帰できるとありました。ここで重要なのは本人を交えたミーティングということです。日本では本人が入れないようです。そのため本人の意志と違うところで決められてしまうので不信感が残るのではないかと思います。本人に寄りそった対話重視の医療が入院を減らす道ではないでしょうか？



2日間宇田川さんと一緒に出演していた依存症が専門の本松俊彦さんは、以前浜家連研修会に講師で来ていただいたことがありますが(知っている人が出ているとテレビが身近に感じられます)多職種による対話重視の治療は良い事とは分かっているが人件費の関係でなかなか進んでいない。それでも少しずつやるところが出てきたよと言っていたので、これから期待したいと思います。しかし、民間の努力ではなかなか進んでいかないので、こういう事こそ厚労省が予算を付け推進して欲しいと思います。入院費を減らすためにも予防のためにも有効だと思います。横浜市は精神医療が進んでいると思うので、是非取り組んで欲しいと思いました。

Eテレの夜8時から障害者関係の番組が多く精神疾患に関することも時々放送していますので注意して観て下さい。とても参考になります。



◆第3期障害者プランの見直しについて◆

4月の常任理事会で「第3期障害者プランの見直し」について、健康福祉局のヒアリングがありました。この席上、浜家連から第3期障害者プランにある以下のテーマに沿って、25項目の意見を書面で提出しました。

- テーマ1 出会う・つながる・助け合うについて
- テーマ2 住む、暮らすについて
- テーマ3 毎日を安心して健やかに過ごすについて
- テーマ4 生きる力を学び、育むについて
- テーマ5 働く・活動する・余暇を楽しむについて



◆平成30年度精神保健福祉施策要望書◆

昨年より検討してきました「平成30年度精神保健福祉施策要望書」がほぼ出来上がりました。もうすぐ皆様にお知らせできると思います。

6月頃からは、横浜市及び政党へ要望書提出及び懇談会を行ないますので、皆さんご参加下さい。

グループホームモニター委員から

浜家連ニュース3月号に掲載しました「B型グループホームのモニタリングを行って」の続編です。

B型グループホームのモニタリングを行って（その2） わかば会 植木秀子

お願いして部屋を見せて頂きました。年齢は20代～60代の方で5名の人達が住んでいました。玄関・バス・トイレ・洗面所（洗濯機等が置かれています）居室にはベッドやテレビが置かれ、趣味で作った人形や花が飾ってありました。また、休日にガイドヘルパーに同行してもらい、観光地で撮った写真が壁一面に張り付けてあったりして、生活を楽しんでおられるのだと感じることができ、ほほえましく思いました。

みなさん自分の部屋を見て欲しいらしく、招かれるままに住んでいる方たちのほとんどの部屋をみさせていただきました。どの部屋もきれいに掃除されて清潔な感じがしました。そして話を聞かせていただきました。「ここでの生活は楽しいですか」「上手にお掃除されていますね」「作業所から帰ってきて何を最初にしていますか」「食事はおいしいですか」「土曜、日曜はどんな風に過ごしているの」などいろいろな話を聞かせていただきました。

土・日は迎えにきてくれる家人と家に帰る人、ひとりで交通機関を利用して帰る人、

帰るところがない人は趣味の手芸をしたり、小旅行をしたりと自分の生活を大切に暮らしている様子が心に残りました。また、お金の管理は金銭帳にお金の出し入れを職員と記入し、後日家族に確認してもらっているようです。

町内会にも参加して職員と一緒に会合に出席したり、地域の行事にも積極的に参加し、ご近所の方たちとの交流も盛んに行っていると話していました。

その後モニターの私達も夕食をご一緒に頂くときがあります。みなさん揃っていただくのかと思いましたが、自分の部屋で一人が良いという方もおられました。私達モニターもホームの方たちと同じ食事代を払い、ごちそうになります。

みなさん「ここが好き、これからもここで暮らしていきたいと思います」と話していました。

最近、モニターで訪問したグループホームの職員さんとの話し合いで「入居者の高齢化にどう対応していくかが問題です」と話されていました。高齢化の波はグループホームにも押し寄せてきています。



初めてモニタリングを行う時に、どんなことに気を付けたら良いのでしょうかと、作業所・グループホームの運営に携わっている方にアドバイスを求めたところ

「住んでいる人達の笑顔がたくさん見られたら、そこに住んでいる人たちは居心地がいいんだと思う。」と話してくださいました。

## 地域活動支援センター（通称 作業所）から

浜家連は金沢区にある「青いとり作業所」及び神奈川区にある「わかば工芸」2ヶ所の地域活動支援センター（精神障害者作業所型）の運営母体となっています。これらの作業所では当事者の方々のためにさまざまな活動を行っています。

青いとり作業所から紹介のお便りが届きました。

### 青いとり作業所の紹介

青いとり作業所施設長 石渡健太

青いとり作業所の歴史は長く、昭和 59 年から活動をしています。始めは町内会館の一室をお借りしての活動だったのですが数度の移転を経て、現在ではおしゃれな一戸建てで活動ができています。多くの方々のご尽力があっての事だと感謝しています。

青いとり作業所の一日は 9 時半からの「朝のミーティング」から始まります。ミーティングの最中に株式会社ヨコデンから作業する品物が届きます。ミーティングを一時中断してその品物を搬入し、ミーティングを再開します。

横道に逸れますが、以前、作業所がマンションの三階にあったころは作業する品物の搬入、搬出が大変でした。朝からバケツリレーならぬ大きな箱や重い箱のリレーで始まり、作業後は出来上がったものを三階から一階まで降ろします。体力的に大変でしたが、逆に体力の向上に繋がっていたと思います。

ミーティングの話に戻ります。毎朝のミーティングでは予定の確認、行事の参加希望を受け付けたり、掃除当番など役割を決めたりします。最後に作業のテーブル分けを行います。いつも気に入ったテーブル、メンバーと作業をしているとほかのメンバーとの交流が無くなってしまう恐れがあるので作業に参加するメンバーにトランプのカードを引いてもらい、同じマークの人と作業をするようにしています。ミーティングが終わった後、早速作業に取り掛かります。出来るだけ分かりやすいように手順を細かく分けてやるようにしています。作業はお昼休み（11 時半頃～12 時 50 分）をはさみ、2 時半頃まで行うことになっていますが、作業の量によっては残業する日も少なくありません。昔は作業後に職員が残って作業を行うこともありましたが、今はメンバーの作業技術も高くなり、職員だけが大変な思いをする事も減ってきています。

毎日が作業ばかりでは、息が詰まります。忙しい時期など、段々と殺伐とした雰囲気にもなります。青いとり作業所では毎月月末に「1 日レク」を行います。青いとり作業所では映画鑑賞が昔から人気があります。また、毎年秋に一泊旅行を行ないます。一泊旅行を励みに 1 年頑張っているメンバーもいます。

ここまで、日々の活動などを紹介させていただきました。青いとり作業所は作業の種類が多種多様、毎日どんな作業がどれだけ入るかがその日にならなければ分かりません。忙しいときはとことん忙しく、暇なときは全く作業がない時もあります。メンバーは日々臨機応変にそれに対応しなければなりません。それでもメンバーの皆さんは日々作業所で頑張っています。メンバーが「今日も良い 1 日だったなあ～」と思えるような作業所になるようにこれからも日々過ごしていきたいと思っています。



青いとり作業所

## ハイ！電話相談です。

### ピア電話相談にかかわって

浜家連で電話相談を始めて長い年月が経っているとお聞きしていましたが、私が関わらせていただいたのはやっと5年目で新米です。それでも初めからあまり緊張もしないで、電話相談の受け答えができたのは、我が家の当事者とのやりとり、家族会の方たちとの長い年月をかけての話し合い、勉強等がどんなに役立っているか感じています。

電話は当事者、家族からですが、当事者が圧倒的に多いです。相談して知識を得たいという方もおられますが、大半は一人ぼっちが寂しくてかけてくるのです。ご自分の思っていること、感じていることを誰かに聞いて欲しいのです。何か話したくなったり浜家連のピア相談を思い出してくれるのは、ありがたいことです。

内容はそれぞれですが、教えてもらうことが多くあります。例えば世話するつもりで無遠慮になってしまい、相手が病気であっても大人であることを忘れてしまうヘルパーさんのことを聞いた時は、親の私が犯している過ちでもあると思いました。「いつまでも昔のことにこだわっていないで、身軽にして新しいことを取り入れていこう」と思っていると話す当事者は、何



### 田口圭子（たちばな会）

とか不要な物を処分して身軽になりたいと思っている私のはるか上をスイスイと深い所まで到達しているのです。こんなことを話せる、いや考えられる当事者はすばらしいと思います。

家で当事者ばかりを見ていると、出来ない面、不十分な点ばかり目に付いてしまうのですが、姿も名前も知らない当事者と話すことで当事者の持っている良い点、ものを見る確かな視点を感じることも多いです。それは私にとってありがたい時間です。

なかには電話を繰り返し掛けてくる、いわゆるリピーターがいます。いつも同じような話をするので、私たちの役割は何なのか、役に立っているのかと疑問を感じたり、空しくなったりしましたが、その時その話はその人にとって繰り返す必要があるのだろうともっばらお聴きすることにしました。それから気持ちが楽になりました。

電話をとり、お話をお聴きする、相談があったら意見を言う。そんな繰り返しですが、対応する人によって違ういろいろな反応、意見を当事者達は自分の中で上手く取り入れ、元気の基にさせていただければやりがいもあるし、うれしいなと思っています。

### NPO法人 浜家連第9回通常総会のお知らせ

日時：平成29年5月30日（火）13：00～15：00

会場：横浜ラポール2階大会議室

#### 【議案】

- ①平成28年度事業報告（案）及び収支決算（案）について
- ②平成28年度会計監査について
- ③平成29年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
- ④その他

#### 【編集後記】

木々の緑が鮮やかに映る季節になりました。時には気の向くままに、街中を「ぶらっ」と歩くのもいいかも知れませんね。見慣れた景色が違って見えたり、新しい発見があるかも知れません。  
（事務局 中居）